



日本女医学会誌

公益社団法人日本女医学会
復刊第 254 号
2025 年 5 月 1 日発行
題字 吉岡彌生

巻頭言

冤罪を通して人権を考える

会長 前田佳子



2025 年 5 月 18 日に開催される第 70 回定時総会は 18 年ぶりに横浜で開催されます。総会終了後にはルポライター鎌田慧氏による公開講演会「冤罪と死刑～人質司法の現状～」が予定されています。冤罪（えんざい）とは「無罪であるのに犯罪者として扱われること」を指します。冤罪事件を扱った映画やドラマも多く、「逃亡者」「ショーシャンクの空に」などが思い出されます。最近では NHK の大河ドラマでも主演を務める横浜流星さんが熱演する「正体」が昨年公開されました。冤罪は重大な人権侵害であり、その最たる場合が死刑判決です。戦後の日本では死刑判決確定後に無罪となった事件が 5 例あり、その 5 例目が 2024 年 10 月に無罪が確定した「袴田事件」です。冤罪を晴らせずに生涯を終えた人たちがどれほどいるのかと、想像せずにはいられません。

冤罪被害者を救済するための制度として、再審（裁判のやり直し）請求手続があります。しかし、袴田巖さんが最初に再審を求めてから開始まで 40 年余りかかっており、審理の長期化が課題として指摘されています。1963 年に発生した「狭山事件」で無期懲役の判決を受けた石川一雄さんは、3 回目の再審請求中でしたが、残念ながら 3 月 11 日にこの世を去りました。再審制度は 70 年以上一度も改正されていませんでしたが、2025 年 2 月 7 日に鈴木法務大臣が再審制度の見直しに向けて、法改正の検討を法制審議会に諮問することを明らかにしました。法務省では有識者会議が「早急に法整備に取り組む必要がある」という意見で一致したことを踏まえ、諮問する検討項目をまとめることになりました。また、超党派の議員連盟も再審の迅速化を図るための法改正を目指して本格的な検討を始めているようです。

もう一つの問題は死刑制度の是非です。被害にあった家族

は犯人に極刑を求めるのでしょうか、それが冤罪であったとしたらどうでしょうか。現在は世界の 140 カ国で死刑が廃止されていますが、日本においては国民の 8 割が死刑制度も「やむを得ない」としていることなどから、死刑制度についての検討は進んでいません。そこで 2024 年 2 月に国民各界及び各層の参加を得て、十分な情報をもとに活発な議論を行い、日本の死刑制度のあるべき方向性について提言するため「日本の死刑制度について考える懇話会」が設立されました。2024 年 11 月 13 日付けで取りまとめた報告書の冒頭に記載されている『死刑制度に対する基本的認識』をここで紹介します。報告書全内容を是非ともお読みいただき、人間の尊い生命を奪う不可逆的な刑罰について関心を持ち、考えていただきたいと思います。

『死刑は個人の生命を剥奪する究極の刑罰であり、他の刑罰（自由刑や財産刑）が個人の権利の一部を制限するのとは異なり、人権の基盤にある生命そのものの全否定を内容としている。しかも、人が行う裁判である以上、誤判・えん罪の可能性が常につきまとい、ひとたび誤った裁判に基づく執行が行われるに至れば、取り返しのつかない人権侵害となる。このように、刑種としての死刑そのものが根源的な問題を孕んでいるというばかりでなく、現行の日本の死刑制度とその現在の運用の在り方は、放置することの許されない数多くの問題を伴っており、現状のままに存続させてはならない。凶悪な犯罪の被害者及びその遺族の無念さと悲しみが限りなく深いものであり、また、世論調査において国民の多くが死刑制度の存置をやむを得ないと答えているとしても、それらのことは、死刑制度を何らの改革・改善も行わず、現在のような形のまま存続させることの理由となるものではない。』

日本女医学会誌（復刊第254号）もくじ

巻頭言	前田佳子 (1)	日本女医学会栃木支部総会のご報告	馬場安紀子 (4)	学術研究助成 受賞者の軌跡	(9)
2024 年度長寿社会福祉事業オンラインセミナー	牛山元美 (2)	結成 40 年記念祝賀会を迎えて	渡邊弘美 (5)	理事会議事録	(13)
北海道三大大学の医学生とキャリアを考える会講演報告	長井桂 (3)	国際女医学会通信 ^③	前田佳子 (6)	軽井沢セミナー中止のお知らせ	(16)
		北から南から ^⑫	藤谷宏子 (8)	ハラスメント対策ポスター	(16)
				会員動静 / 寄附者一覧 / 編集後記	(16)



2024 年度 長寿社会福祉事業オンラインセミナー

【講師】料理研究家 枝元なほみ先生

病で得た食と命への気づき ～「食べる」と「生きる」はくっついてる～

理事 牛山元美



枝元さんは、劇団の役者兼料理主任から無国籍レストランのシェフとなって、料理研究家になったという経歴の持ち主で、食材の本来の味を生かした家庭料理をテレビなどでも紹介し、子ども達と一緒に料理されることも多く、「エダモン」の愛称で親しまれてこられました。愛くるしい笑顔と、ほんわかとした自然体の語り口に多くのファンをお持ちですが、その一方で、ホームレスの人々に仕事をつくり、自立を支援するビッグイシュー基金の共同代表なども務められ、自ら積極的に社会活動にも取り組まれてきました。

枝元なほみさんは、2019 年頃に「間質性肺炎」と診断され、2023 年には新型コロナウイルスに感染。酸素吸入が必要となり入退院を繰り返されていました。そんな体調の不安定な中でしたが、講演の依頼をととても快く引き受けてくださいました。2024 年秋に当会の理事二名が枝元さんのご自宅を訪問し、彼女の愛するキッチンで、お話と料理の実演を収録させていただきました。枝元さんは、鼻につけた酸素チューブに「ポチ」と名前をつけ、「いつでもついてくるのよ」と笑いながら、軽やかに講演を始められました。講演のタイトルには、ご自身の思いを込めて『「食べる」と「生きる」はくっついてる』との言葉を加えられました。

病気で食べられなくなり、「このまま命が終わってしまうのでは」と不安を感じた枝元さん。しかし、体調が回復し食べられるようになったとき、食事の美味しさが体に染みわたり、「生きていてよかった」と心から感じたそうです。「食べる」ことは単に栄養を摂るだけでなく、喜びや生きる力につながるもの。病を得たことで、その大切さを改めて実感されたそうです。

そして、彼女は料理することが大好き。「こんなに簡単なのに美味しくできちゃうの！すごいでしょ？」と、まるで子供がいたずらの種明かしをするように楽しそうに話す枝元さん。病気になると料理する気力も失われがちですが、「そんな時こそ、簡単で美味しく、体に優しい料理を作る工夫をすればいいのよ！」と惜しみなく知恵を伝授してくださいました。

例えば、白菜。「切っておくと楽で便利！塩を振って袋に入れ、常温で置けば簡単に発酵するのよ！」とすぐに実践できる発酵白菜の作り方を紹介。乳酸菌たっぷ

りのこの白菜は腸内環境を整え、豚肉と合わせれば体に優しいシンプルな鍋料理に。白菜の甘みとほのかな酸味が絶妙に調和し、まさに滋味深い養生食です。また、塩麹や醤油麹を使った「チョー簡単！」な美味しい焼き肉は「気力、体力に応じて」焼きましょう。病気で臥床しながらも手軽にタンパク質を摂れる「干し納豆」。そして、「エダモトの酢の素」に漬けた「食べるいりこ」はお酢ごとごはんにかけて「ほーら簡単混ぜ寿司！」。ユーモアと茶目っ気たっぷりに様々な料理を紹介してくださる彼女の姿を見ているだけで、こちらまで幸せな気持ちになりました。

病を得たからこそ生まれた、消化に優しく、それでいて美味しく、何より簡単に作れるレシピの数々。彼女の「生きることを楽しむ力」が、笑顔と軽快で可愛いおしゃべり、そして料理から溢れ出ていました。「食べることは生きること」、そして料理することは丁寧に生きることであり、美味しいものを作ることが生きる喜びにもなる、と改めて実感するご講演でした。

2025 年 2 月 27 日、枝元さんは 69 歳で旅立たれました。医療の力が及ばず、そのご逝去は本当に残念で寂しくなりました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

食べる私たちも、食べられる食材も、そこにはともに命があり、先人たちの知恵や発酵という自然の力を活かし、より消化しやすい食事が生まれ、そこに私たちはおいしさを感じ、生きていることを喜ぶ、枝元さんが教えてくれた食と命の関係をこれからも大切にしていきたいと思います。

枝元さんのお話、お料理の動画、そしてレシピは、当会のホームページでご覧いただけます。彼女がまさに命をかけて必要な人に届けようとした、優しさ溢れる贈り物。どうか、ひとりでも多くの方に届きますように。



講演会

北海道三大学の医学生とキャリアを考える会

人との対話、機械との調和

～コーチング技術と AI から考える、これからの医療と働き方～

北海道支部長 長井 桂

本年度の講演会は、昨年度に引き続き「北海道三大学の医学生とキャリアを考える会」として北海道の三大学合同で札幌会場、旭川会場、web のハイブリッド形式で行った。

1. 菅野恭子先生（旭川医科大学病院 皮膚科）

「医療者の対話術 コーチングのアプローチ」と題して、コーチングとは何か、そしてその具体的な実践法について講演していただいた。コーチングとは、「人が必要としている答えはその人の中にある」という考えのもと、人の目標達成を支援するためのアプローチである。未来に向けて、本人の内面から得た気づきから行動変容を促す手法であり、重要だが緊急度が低い、本人が真に達成したいと考えている目標に対し特に有効である。

コーチングスキルの基本は、聴くこと、問いを立てること、そして対話することである。聴くことによって、相手と自分を知り、相手を肯定することができる。医療者としては、患者が語らない声にも、まだ話せていないことがあるのではないかと考えながら聴くことが、一流の聴き方である。傾聴の目的は、細胞が autocrine を起こすように、話し手に自分の声で自己フィードバックを起こすことができるようにすることだとおっしゃった。そして、聴くことの最良の学び方は自分も誰かに話を聴いてもらうことだそうだ。

最後に、「人間を磨くには人間とコミュニケーションをとるしかない」というチェ・ゲバラの言葉を紹介していただき、どのようなコーチングをされたいか、問いを投げかけていただいた。

2. 藤田憲明先生（北海道大学病院 麻酔科）

麻酔科医として働かれる傍ら AI の開発や実践に積極的に取り組まれている藤田先生から AI と医療の現実と未来についてご講演頂いた。

現在、医療現場では AI が多様な形で導入され、人間と共存している。講演の中で紹介された具体例としては、医師による問診前に治療内容の説明を行う、一次スクリーニングで所見を読み込み診断を行う、手術時に術者の視覚支援を行う、画像システムを用いて物品・機械・手術室の管理を行う、手術室職員の加速度をトラッキングして緊急事態を把握する、麻酔や気管挿管のリアルタイム管理を行うなどが挙げられる。

さらに、ChatGPT を例に挙げて AI の限界についても言及された。AI には、ハルシネーションや、個人情報学習してしまう可能性、誤った情報をそのまま記録してしまうことなどの倫理的な課題がある。

AI を効果的に活用し、人と AI それぞれの強みを活かすためには、現時点で AI と医師がそれぞれできることを明確に分離しておくことが重要である。また、将来的に AI がさらに発展した場合でも、AI に過度に依存することなく、自らが AI を適切に扱うための知識を身につけることが求められる。

今回の講演は、AI と医療者が今以上に共存する未来がいずれ訪れることへの期待と、それに向けて私たちが準備すべきことを自分事として考える貴重な機会となった。



報告

日本女医会栃木支部

日本女医会栃木支部総会のご報告

栃木支部長 馬場安紀子

2024 年 12 月 1 日（日）、栃木支部総会を宇都宮市の栃木県青年会館コンセーレにて開催しました。日本女医会栃木支部は、1957 年に結成されましたが、1980 年から 15 年間、栃木県女医会と合流して活動していました。1994 年、栃木県女医会の解散に伴い、日本女医会栃木支部は再び独立し、今回は、再開後 30 回目の支部総会になりました。

総会後には、国際医療福祉大学教授の大塚美恵子先生による講演会「脳脊髄液漏出症の臨床」を開催しました。大塚先生は、栃木県出身、日本神経学会専門医で脳脊髄液漏出症研究の第一人者です。

【講演要旨】

脳脊髄液漏出症とは、髄液が脊髄レベルで漏出することにより二次的に髄液量減少と髄液圧低下をきたし、起立性頭痛（90%以上）、頸部痛、めまい、視機能障害等の症状を呈する疾患である。

〈原因〉本来は原因不明とされたが、むち打ち損傷などの軽微な交通外傷、スポーツ外傷、尻餅、転倒などが契機となる。

〈診断〉MRI、CT ミエログラフィーでの髄液漏出所見により診断する。

〈漏出部位のタイプ分類〉漏出部位の違いにより、タイプ 1（椎間板棘による腹側硬膜裂傷）、タイプ 2（脊柱管内硬膜裂傷）、タイプ 3（偽髄膜瘤を形成し静脈へ瘻孔形成）、タイプ 4（椎間孔遠位部硬膜裂傷により脊柱管の外側、筋層内に漏出）に分類されているが、近年新たな漏出部位（椎骨動脈が硬膜を貫通する部位）が確認された。

〈治療〉①硬膜外自家血注入療法（ブラッドパッチ）：漏出部位に自己静脈血を注入、②安静＋水分補給、③硬膜外生理食塩水注入。

〈小児例の特徴と問題点〉頭痛、立ちくらみ、起立性調節障害、睡眠・覚醒障害、倦怠感など。怠けと誤解され、不登校、早退になる例もあり、周囲や学校の理解・対応が必要。

一時は社会問題化したこともある同症は、未だ不明なこともあるとのことですが、今回専門医から歴史的な経緯や、難治例についてのお話も伺い、理解を深めることができました。

講演会の後は、お茶会で、互いの近況など話に花を咲かせ楽しいひとときを過ごし、名残を惜しみつつ会場を後にしました。開催にご尽力いただいた皆様に感謝申し上げます。



報告

日本女医会東京都支部連合会

結成 40 年記念祝賀会を迎えて

東京都支部連合会会長 渡邊弘美

2025 年 2 月 15 日（土）
18 時から東京都支部連合会
第 40 回定時総会に引き続
き、結成 40 周年記念祝賀
会を明治記念館末広の間に
て開催いたしました。1984
年（昭和 59 年）にそれまで
支部ごとに活動していた東
京を、23 区、都下東、都下
西、東京女子医大支部の 26
支部に分け、各々の支部に
支部長を置くこととし、協
力体制を整え、ひいては日本女医会のパワーとなって発
展につながるという考えを源泉として設立され、その年
の 2 月 19 日に日本橋の興和ビルで盛大な発会式が開催
されました。以来、①親睦・交流 ②学術 ③社会貢
献を 3 本の柱として活動してまいりました。

当日は定時総会に引き続き、30 名の出席で大変有意
義な会となりました。大変多忙ななかをご出席下さった
会員や、本部の前田佳子会長、埼玉支部長の竹並麗先
生、これまであまりご出席の機会がなかった先生方のお
顔も見られたのは私にとって大きな喜びでした。会に先
立って私が「会の歴史や現状、将来へ向けて」の内容
でプレゼンテーションをいたしました。学術部門から恒
例のミニレクチャーとして亀山裕美先生が最新のトピッ
クスである「認知症の抗 A β 治療と予防」をご講演く



ださいました。これまで結成 10 年には「10 年の歩み」
が、20 年には「創立 20 年記念誌」が発行されていま
すが、その後の記録は無いので、是非 40 周年記念誌の発
行をと呼びかけました。

おいしい和食をいただきながら、「この 20 年の私の
活動」のお題で皆様からスピーチをいただきました。ス
ピーチの内容から、女性医師として、臨床・研究、ライ
フワークバランスに取り組んだうえでの大変なご苦労が
伺われました。そして、これからの 10 年へ向けて、魅
力ある女医会にするには、会員を増やす、支部会ごとの
活性化を図る、自分の専門性を活かす、人脈を広げる
などの提案をして確認し合い、閉会いたしました。

トピックス

2024 年秋の褒章

「藍綬褒章」に長崎支部の黒崎伸子先生

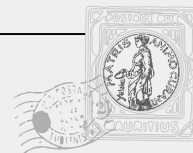
社会福祉や公共事業などで
功績を残した方、またはその
事務に関し勤勉であった方に
授与される藍綬褒章を、長
崎支部の黒崎伸子先生が受
賞されました。黒崎先生は、
スリランカやソマリアなどの
紛争地域で医療活動に従事。
『国境なき医師団日本』の会
長（2010～2014）をお務
めになりました。



国際女医会通信

The Letter from Medical Women's International Association(MWIA)

34



2025 年はエジプトで 第 33 回国際女医会議が開催されます (第 2 報)

National coordinator (NC) 前田佳子

5 ヶ月後に迫った 10 月開催の第 33 回国際女医会議についての詳細情報をお知らせします。盛り沢山の観光ツアーも準備されています。ご一緒に参加いたしましょう！



第33回国際女医会議 概要

開催地：エジプト、カイロ

会場：ヒルトン・グランド・ナイル・ホテル

開催期間：2025 年 10 月 12 ~ 14 日

(開催日程が変更になりました)

テーマ：One Humanity: Health Solutions through Our Partnerships (一つの人類: パートナシップを通じた健康ソリューション)

参加登録費	早期参加登録 (~ 6/30)	通常参加登録 (7/1 ~ 10/11)	当日参加
国際女医会 会員 (日本女 医会会員)	500 USD 1USD=150 円の 場合 75,000 円	600 USD	700 USD
非会員	650 USD	750 USD	800 USD
同行者	300 USD	350 USD	400 USD
Gala Dinner 参加費	100 USD	100 USD	120 USD

参加登録費には会議全般の参加費、昼食、コンGRESS バッグなどが含まれます。

参加登録は以下よりお願い致します。

[https://mwiacongress2025.com/
registration/](https://mwiacongress2025.com/registration/)



サポートが必要な場合には事務局までご連絡ください。

分科会セッション

- ・持続可能な開発目標 (SDGs) を実現するために女性の健康を優先する
- ・女性の健康の新たな地平
- ・デジタルヘルス時代における女性の問題

ブレイクアウトセッション

- ① ライフサイクルに沿った女性の健康
- ② ジェンダー平等
- ③ ワークライフ バランス
- ④ 女性に対する暴力
- ⑤ 女性の健康と気候変動
- ⑥ リーダーシップと専門能力開発
- ⑦ リプロダクティブ・ヘルス
- ⑧ デジタルヘルスとイノベーション
- ⑨ 女性のメンタルヘルス
- ⑩ 性別および性差医療
- ⑪ 女性医師と持続可能な開発目標
- ⑫ 女性のがん、⑬ ライフスタイル医療

抄録提出締切：2025 年 5 月 15 日

MWIA2025Scientific@gmail.com まで

抄録受領通知：2025 年 5 月 30 日

抄録採択通知：2025 年 6 月 30 日

観光プログラム

日帰りツアー

日帰りツアー（半日）	Price / Person
ツアー 1：エジプト考古学博物館（カイロ博物館） エジプト政府によって 1835 年、カイロに設立されました。現在の建物はフランス人建築家マルセル・ドゥールニヨンの設計による新古典主義様式で、1900 年に建てられたものです。この博物館では先史時代から古代ギリシア・ローマ時代まで、およそ 16 万点のコレクションを所蔵しています。	USD 65.00
ツアー 2：ピラミッドとスフィンクス カイロ近郊に位置するギザの大地には、古代エジプトのファラオであるクフ王、カフラー王、メンカウラー王の 3 大ピラミッドが並んでそびえており、中央のカフラー王のピラミッドの前には、全長 57 メートル、高さ 20 メートルに及ぶ人頭獣身のスフィンクスの石像があります。1979 年には「メンフィスとその墓地遺跡・ギザからダハシュールまでのピラミッド地帯」として世界遺産に登録されました。	USD 75.00
ツアー 3：メンフィスとサッカラ メンフィスは首都カイロから車で 1 時間ほど南下したところにあります。紀元前 3 千年頃まで南北に別れていたエジプトをまとめ統一王朝としたのが古王国第一王朝のナルメル王で、築いた首都がメンフィスです。メンフィスには 1820 年に発見された全長 15 m のラムセス 2 世の巨像、トトメス王ののスフィンクスなどがあります。サッカラはピラミッドを含む各種祭殿や柱廊などを含み南北 5 45 m、東西 2 77 m という広大な遺跡が残っています。紀元前 2 6 67 年から約 2 0 年間にわたってエジプトを支配したジェセル王の通称「階段ピラミッド」があります。	USD 75.00
ツアー 4：ファラオ村 古代エジプトを現代に復活させたテーマパーク。ナイル川の中洲に浮かぶ島を利用して、敷地内には 10 ケ所の博物館。ナイル川クルーズ船、レストラン、遊園地などが楽しめます。	USD 60.00
ツアー 5：シタデル、アラバスター・モスク、スルタン・ハッサン&ハーン・エル・ハリリ・バザール サラフッディーンシタデルは丘の上に位置し、カイロのパノラマビューが望め、印象的なムハンマド・アリ・モスク（アラバスターモスク）があります。イスラム教カイロのスルタン ハッサン モスクはマムルーク朝時代に建てられ、複雑な彫刻と美しい幾何学模様で飾られた見事な内装を誇っています。	USD 60.00
ツアー 6：オールドカイロ地区、コプト教会、コプト博物館 イスラム化する以前のローマ帝国時代から続くキリスト教会が残る、混沌としたイスラム色の強いカイロとは違った不思議な雰囲気が漂っています。住民の多くが独自の生活スタイルを守る「コプト教徒」が占める歴史的にも文化的にも貴重なエリア。	USD 60.00
ツアー 7：アレクサンドリア日帰りツアー（昼食込み） エジプト北部、地中海沿いにあるエジプト第 2 の都市アレクサンドリアは 2000 年前には世界の中心都市だったため、今もなおギリシャ・ローマ時代の名残があり、歴史が深く様々な文化が混ざっています。	USD 160.00
ツアー 8：エジプト大博物館半日ツアー ギザ地区に新しくオープン中の GEM こと大エジプト博物館。老朽化したカイロ市内の考古学博物館から、展示物がほぼ 80% くらいは移転済みで、2025 年 7 月に全面オープンする予定。博物館は日本が資金支援したことも知られています。	USD 110.00
ツアー 9：ナイル川ディナークルーズ 5 つ星の民族ショーと音楽	USD 55.00

学会前ツアー：10/8 ～ 10/11（3 泊）
学会後ツアー：10/15 ～ 10/18（3 泊）

学会前後のツアー	一人当たり費用 （シングル使用）	一人当たり費用 （ツイン使用）
1) ナイル川ツアー * 飛行機代含まず	USD 890.00	USD 750.00
2) シyam・エル・シェイク ** （3 泊 4 日、5 Stars Hotel） * 飛行機代含まず	USD 450.00	USD 295.00

** シナイ半島の南端で、アフリカ大陸とアジア大陸に挟まれた三角形の半島で、北は地中海、南は紅海に面し、西はスエズ運河でエジプト本土と隔てられて、東はイスラエルとヨルダンに接しています。珊瑚礁が透けて見えるコバルトブルーの海があるマリンリゾート。

観光の申し込みは以下よりお願い致します。
<https://mwiacongress2025.com/touristic-program-registration/>



第12回

阪神・淡路大震災から 30 年

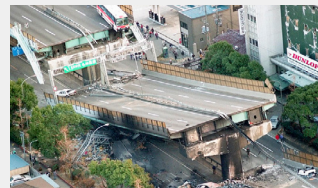
副会長 藤谷宏子

北から
南から

本年 1 月 17 日で阪神・淡路大震災から 30 年が経ちました。当日は、新聞の 1 面や、各種報道で 30 年前の写真などが出ており、様々な記憶がよみがえってきました。阪神・淡路大震災は早朝 5 時 46 分に明石沖を震源地としておこり、マグニチュード 7.3、死亡者は 6434 人でした。特に兵庫県神戸市や芦屋市、西宮市の被害は甚大で東日本大震災が起こるまでは第 2 次世界大戦後最悪のものでした。私は当時大阪に住んでおり、朝早くの揺れは強かったものの、棚から食器が落ちる程度でしたが、テレビでは次々に悲惨な様子が報道されました。阪神高速道路の寸断で高速道路から落ちそうなバスの映像、次々に発生する火事、倒壊する家屋など今でも鮮明に思い出します。

さて、当時私は大阪市天王寺区で、小児科・アレルギー科で開業したばかりで、このような時に何をすべきかわからないまま、徒歩圏で来られる患者さんの診療にあたっていました。日に日に激しくなっていく被害の状況が報道される中で、食物アレルギーの子ども達のがとても気になりました。30 年前の食物アレルギーの治療は除去食が中心で、多くの子ども達がアレルゲン除去などを強いられている時代でした。その中で、ミルクアレルギーの赤ちゃんにアレルギー用の粉ミルクが避難所で手に入るかどうか、とても心配でした。今では小児アレルギー学会などから必要なアレルギー食が届けられているようですが、当時はそんなことはありませんでした。

私にできることから始めようと、とりあえずアレルギー用のミルクを必要とところに届けたいと考え、森永乳業のご協力を得て、必要なアレルギー用の粉ミルク（MA1）をクリニックに準備していただきました。どこで困っておられるかわからないので、ライフラインが止まっている中での連絡方法に困りましたが、幸い朝日放送ラジオで何度も放送して下さることになりました。放送を聞かれた保健師さんたちも避難所で声掛けをしてくださったようでした。次に困ったのは、



火事（左）、高速道路寸断（右）

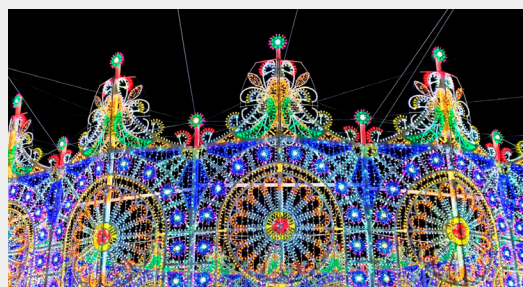
どのようにして届けるか……。道路は寸断されていますし、送ることもできません。患者さんのお父さんでクロネコヤマトの運転手さんをされている方が放送を聞いておられ、ボランティアで物資と一緒に運んで



阪神高速道路が崩壊し、転落しそうな観光バス（下）

くださると連絡をくださいました。実行力のある方で仲間にも連絡してくださり、皆さんの御好意で困っている方々にアレルギー用ミルクをお届けすることができました。ラジオではクリニックの電話番号が何度も放送されたので、知り合いの方からもずいぶんご連絡をいただき、いろいろなお協力を申し出ていただきました。この阪神・淡路大震災では、このような人の心のあたたかさや思いやりの心が一番印象的でした。その時の皆さんのさりげない、熱いご協力を思い出し、心から感謝しています。

神戸のルミナリエは、阪神・淡路大震災の鎮魂と追悼、町の復興を祈念し、1995 年から毎年 12 月に開催されています。今年は節目の年ということで、1 月に開催されました。その光に美しさだけでなく何か神秘的な祈りを感じるのは私だけでしょうか？震災から 30 年経ちますと、20 代より若い方はこの震災を体験されていませんし、少しずつ風化し過去のことになっていくように感じていますが、会長から一つの体験をお伝えするようにとのことで拙い経験ではありますが、書かせていただきました。震災から得られた経験を胸に今後も診療に当たりたいと思っています。



追悼（左）、ルミナリエ（右）

学術研究助成

受賞者の軌跡

ハイスループットスクリーニングを用いた
新規老化制御化合物の同定と社会実装への探索慶應義塾大学 医学部 眼科学教室
稲垣絵海

本研究課題に対し研究助成をいただきましたこと日本女医会会長様をはじめ、理事の先生方、関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。

研究目的

本研究の主要な目的は、健康長寿社会の実現に向けた、ハイスループットスクリーニング (HTS) を活用した革新的な老化予防薬の開発であります。老化予防薬は、急速に進行する人口高齢化に伴う認知症患者の増加という社会的課題に対応するものであり、医学的あるいは社会的に重要な意義を持つと考えます。

方法と結果

まず、HTS のバリデーションの開発として HEK293 細胞など市販の細胞株を用い、細胞生存率、細胞内ストレス応答、代謝改易など、標的因子に応じた複数のエンドポイントの評価を可能にするアッセイの開発を行いました。96well plate に播種を実施する細胞数や反応時間、測定タイミングの最適化 HTS のバリデーション実験を実施し、アッセイの感度と特異性を最適化して、アッセイの品質評価指標として Z' 因子 0.5 以上 (自験例 0.8 前後)、また再現性評価として変動係数 20% 以下 (自験例 10% 以下) の安定している系であることを確認できました。

つぎに、iPS 細胞から電気生理学的に成熟した興奮性神経細胞への分化誘導プロトコルの最適化を実施しました。特に、microRNA-9/9* および microRNA-124 を用いた手法 (Ishikawa et al., Cells, 2020) を基盤とし、健康人由来および FAD (家族性アルツハイマー病) 患者由来の iPS 細胞株を用い検討しました。共同研究者の協力を仰ぎ高純度の神経細胞集団の獲得をめざして microRNA の導入方法や濃度、培養条件を最適化し細胞のキャラクタライゼーションを実施しました。既知の化合物を用い本系の容量反応性の確認を実施し、アッ

セイの妥当性を検証しました。また操作者を変更するなどロバスト性についても評価しました。1232 の化合物から候補薬剤を選定しスクリーニングをすすめました。1st screening、2nd screening を経て 3rd screening で候補を絞り限定した薬剤において、持続的に酸素消費速度を計測しながら細胞内の代謝アッセイを実施できるフラックスアナライザー (XF24) を用いて検証をすすめたところ、7 種の薬剤が基礎酸素速度において差があるばかりでなく、ミトコンドリアストレステストの最大呼吸値において有意な差を生じることを見出しました。さらに、当該薬剤のうち二本鎖 DNA 切断のマーカーである γ H2AX の核内 foci の定量化により、iPS 由来誘導神経細胞における DNA 損傷に対するレジリエンス機構を確認しました。これらより本アッセイにより iPS 由来誘導神経細胞の恒常性維持に重要な役割を果たす複数の知見が得られ、これらの代謝機構の調節が神経保護あるいは老化関連疾患の予防において潜在的な標的となる可能性を見出しました。

現在 4th screening を実施中であり、論文化の際には再度ご報告申し上げます所存であります。

【謝辞】

日本女医会様に本助成金を供与いただいたおかげで研究を実施することができ重ねて感謝申し上げます。様々な専門家の協力を仰ぎながら神経科学、幹細胞生物学、病理学など、学際的なアプローチを実施することができた事、真摯に感謝申し上げます。また研究に際し御指導をいただきました慶應義塾大学医学部生理学教室岡野栄之教授、芝田晋介先生、渡部博貴先生、前田純宏先生、石川充先生、眼科学教室根岸教授、病理学教室新井恵史先生、藤田医科大学佐谷秀行教授、研究実施をご助言くださいましたすべての皆様方にこの場をおかりして厚く御礼申し上げます。今後も精進して参りますので引き続き御指導御鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

第 46 回 日本女医会学術研究助成のご案内

日本女医会では医学の発展・向上に寄与する研究を行っている会員の方々の学術研究に対し、助成事業を行ってまいりました。平成 24 年 4 月に公益社団法人に移行いたしましたので、第 33 回より日本国内在住の女性医師を対象として優れた研究に対して、助成を行うこととなりました。つきましては、希望者は下記応募要領にしたがって当会宛てにご申請くださいますようお願い申し上げます。また、平成 28 年度からは、山崎倫子先生のご遺志により寄附された基金 1,000 万円から、若手医師の研究助成を行う「山崎倫子賞」を設立いたしました。学術研究助成応募者の中から、優秀と判断された 1 名に山崎倫子賞を授与いたします。

記

1. 助成の趣旨 後進の研究助成を図り、医学分野の発展、向上に寄与する事を目的とする。
2. 助成金額 1 件 30 万円まで、採択件数は 3 件以内。うち優秀と判断された 1 件には山崎倫子賞として、50 万円を助成する。
3. 申し込み手続き
 - 1) 応募資格
 - ①申請締切時において満 40 歳以下の日本国内在住の女性医師。
 - ②同一研究課題により他機関の助成を申請している、または助成を受けている場合は、当研究助成の申請を認めない。
 - ③助成を受けた後に上記に抵触することが判明した場合には、助成金の返還を求めることがある。
 - 2) 助成期間 原則 1 年間。同一人が重ねて申請をする場合は 5 年以上の間隔をおくこと。
 - 3) 応募方法 日本女医会ホームページ (<http://jmwa.or.jp/> 学術研究助成) より所定の用紙をダウンロードして作成し、電子メールに添付して応募。宛先：(公社) 日本女医会 office@jmwa.or.jp
 - 4) 申込期限 2025 年 12 月 25 日必着。
 - 5) 選考及び発表方法 選考委員会において選考の上、日本女医会理事会で決定し、申請者宛てに通知する。
 - 6) 助成金の贈呈 2026 年 5 月 17 日開催の第 71 回日本女医会定時総会（東京都内にて開催予定）の席上。被授与者または代理人が必ず出席すること（会場までの交通・宿泊費は本人負担）。受賞のスピーチを日本女医会 HP にて公表される会誌 (<http://jmwa.or.jp/> 日本女医会誌) に掲載することを承諾する。
 - 7) 被授与者の本会に対する報告
 - ① 2027 年 9 月 3 日までに収支報告書を提出し、研究経過報告として「学術研究助成受賞者の軌跡」を会誌に寄稿することを承諾する。
 - ②被授与者は、本助成金授与後 3 年以内に本助成金を受けた研究であることを明記した論文の PDF を提出し、日本女医会誌等に掲載することを承諾する。
 - 8) 問い合わせ先 公益社団法人日本女医会事務局 (担当：学術部)

第 11 回 公益社団法人 日本女医会 学術研究助成 溝口昌子賞

平成 25 年に逝去された溝口昌子先生のご遺志により寄附された基金から、女性医師のキャリアアップと永年勤続を目的として設立されました。

記

1. 助成の趣旨 女性医師のキャリアアップと永年勤続を目的とする。
2. 助成金額 1 件 30 万円とし、原則毎年 1 名に授与する。
3. 応募資格 申請時に満 45 歳以上満 55 歳未満で、大学病院または総合病院等に臨床の常勤医として役職に就いて勤務しており、臨床、研究、教育、社会活動等を行っている日本国内在住の女性医師（教授は除く）。
4. 提出書類
 - 1) 所定の様式の履歴書
 - 2) 研究に関する自著を含む共著論文 2 編
 - 3) 公益社団法人日本女医会会員（選考委員を除く）2 名の推薦状
 - 4) 誓約書（申請内容に偽りのない旨を明記）
 - 5) 業績目録
 以上の書類を日本女医会事務局まで、レターパックまたは簡易書留で郵送する。
5. 申込期限 2025 年 12 月 25 日（当日消印有効）
6. 表彰 2026 年 5 月 17 日開催の第 71 回日本女医会定時総会（東京都内にて開催予定）において行う（会場までの交通・宿泊費は本人負担）。受賞のスピーチを日本女医会 HP にて公表される会誌 (<http://jmwa.or.jp/> 日本女医会誌) に掲載することを承諾する。
7. 問い合わせ先 公益社団法人日本女医会事務局 (担当：学術部)

日本女医会 荻野吟子賞 候補者募集のご案内

公益社団法人日本女医会は、女性として初めて公に医師の資格を与えられた荻野吟子の偉業を称え、その名を永久に伝え、女性の地位向上を図ることを目的として、「日本女医会荻野吟子賞」を制定しています。

本賞の候補者を募集いたします。募集要項にしたがってご申請下さいますようお願い申し上げます。

募集要項

- 1. 対象** 独自の活躍をもって、女性の地位向上や市井の医療に著しい貢献をした女性医師（原則として1名）に与える。但し、同賞を受賞したことのある者、及び日本女医会吉岡彌生賞を受賞したことのある者は応募することはできない。
- 2. 候補者の推薦** 日本女医会員による推薦が必要である。
- 3. 提出書類** 所定の様式の履歴書、推薦状を日本女医会事務局までレターパックまたは簡易書留で郵送する。
- 4. 申込期限** 2025 年 12 月 25 日（当日消印有効）
- 5. 選考及び発表** 選考委員会において選考の上、申請者宛に通知する。
- 6. 表彰** 2026 年 5 月 17 日開催の第 71 回日本女医会定時総会（東京都内にて開催予定）において行い、賞状、記念プレートおよび副賞を授与する。副賞は 5 万円とする（会場までの交通・宿泊費は本人負担）。受賞のスピーチを日本女医会 HP にて公表される会誌（<http://jmwa.or.jp/日本女医会誌>）に掲載することを承諾する。
- 7. 問い合わせ先** 公益社団法人日本女医会事務局（担当：庶務部）

日本女医会 吉岡彌生賞 候補者募集のご案内

公益社団法人日本女医会は、日本における女性医師の育成の礎を築いた吉岡彌生の偉業を称え、その名を永久に伝えるとともに、女性医師の医学、または社会への貢献を図ることを目的として「日本女医会吉岡彌生賞」を制定しています。

本賞の候補者を募集していますので、募集要項にしたがってご応募下さい。

募集要項

- 1. 対象** 公益社団法人日本女医会の最高の賞として、次のいずれかに該当する女性医師各 1 名に授与する。
1) 医学に貢献した女性医師 2) 社会に貢献した女性医師。但し、同賞を受賞したことのある者、及び日本女医会荻野吟子賞を受賞したことのある者は応募することはできない。
- 2. 候補者の推薦** 日本女医会員 2 名以上の推薦が必要である。
- 3. 応募方法** 所定の様式の履歴書及び推薦状と、下記の内容の業績目録を添えて、日本女医会事務局までレターパック、または簡易書留にて郵送する。

業績目録

1) 「医学に貢献した女性医師」に応募の方
 - 査読のある欧文の医学雑誌に掲載された論文のうち筆頭著者 3 編以上を含む 5 編の全文
 - 上記以外の査読のある国内外の医学雑誌に掲載された代表的な論文のうち筆頭著者 7 編以上を含む 10 編の論文名、著者名と抄録

2) 「社会に貢献した女性医師」に応募の方
 - 国内外での医療・保健・福祉活動、女性医師支援および女性医師の地位向上等における業績報告書

1) 2) に共通の業績
 - 国内外の学会等での特別講演、招聘講演の演題名、講演年月日、学会名、開催地等
 - 国内外での活動および国際貢献に対する受賞歴：賞の名称と受賞理由、授与者名及び団体名、受賞年月日
- 4. 申込期限** 2025 年 12 月 25 日（当日消印有効）
- 5. 選考及び発表** 選考委員会において選考の上、申請者宛に通知する。
- 6. 表彰** 2026 年 5 月 17 日開催の第 71 回日本女医会定時総会（東京都内にて開催予定）において行い、賞状、楯および副賞 20 万円を授与する（会場までの交通・宿泊費は本人負担）。受賞のスピーチを日本女医会 HP にて公表される会誌（<http://jmwa.or.jp/日本女医会誌>）に掲載することを承諾する。
- 7. 問い合わせ先** 公益社団法人日本女医会事務局（担当：庶務部）

第 8 回 山本續子賞のご案内

平成 29 年に逝去された日本女医会元会長山本續子先生のご遺志により寄附された基金をもとに設立された、グローバルに活躍する女性医師の海外での学術活動などをサポートする助成制度です。希望者は下記の要領にしたがってご応募下さい。

募集要項

- 1. 対 象** 申請時に満 40 歳以下で、大学病院または総合病院などに常勤医として勤務しており、1 年以内に海外留学または海外学会報告などの学術活動を行っている、または 1 年以内に行う予定の日本国に在住している女性医師（教授は除く）。臨床・基礎医学の別は問わない。
- 2. 助成金額** 原則 一人あたり 10 万円
- 3. 申し込み手続き**
 - 1) 下記の書類を揃えて公益社団法人日本女医会事務局までレターパック、または簡易書留にて郵送する。
 - ①申請書と履歴書（<http://www.jmwa.or.jp/山本續子賞>より所定の用紙をダウンロードして作成して下さい）
 - ②学会の抄録
 - ③研究に関する自著を含む共著論文 2 編
 - ④日本女医会会員（選考委員を除く）2 名の推薦状
 - ⑤提出書類に関する誓約書（申請内容に偽りのない旨を明記）
 - ⑥業績目録
 - 2) 申込期限 2025 年 12 月 25 日
- 4. 授 与** 2026 年 5 月 17 日開催の第 71 回定時総会（東京都内にて開催予定）にて行う（会場までの交通・宿泊費は本人負担）。受賞のスピーチを日本女医会 HP にて公表される会誌（<http://jmwa.or.jp/日本女医会誌>）に掲載することを承諾する。
- 5. 問い合わせ先** 公益社団法人日本女医会事務局（担当：学術部）

第 70 回 定時総会公開講演会

ハイブリッド開催
(会場 + Zoom)

【日時】2025 年

5/18 日
12:15 ~

【会場】ワークピア横浜 3F「いちよう」

冤罪と死刑 ～人質司法の現状～

鎌田 慧 氏 (ルポライター)

無実の罪で死刑になる、という民主社会では信じられないことがこの国で起こっている。それは市民の無関心を土壌にしている。司法は「遠い世界」と思われているが、冤罪者に対する同情と理解が自分の身を守ることに通じている。

<参加申込み方法>

- ① Zoom 用 QR コード (<https://us02web.zoom.us/j/85636579000>)
- ② 対面用申込み QR コード (<https://forms.gle/oxTaboCEfXLwbaF7A>)
- ③ FAX または郵送でお申込ご希望の方は、
郵送されるチラシの裏面の申込み用紙をご利用ください。

公益社団法人 日本女医会 第70回 定時総会 公開講演会 ハイブリッド開催

冤罪と死刑

～人質司法の現状～

ルポライター 鎌田 慧 氏

無実の罪で死刑になる、という民主社会では信じられないことがこの国で起こっている。それは市民の無関心を土壌にしている。司法は「遠い世界」と思われているが、冤罪者に対する同情と理解が自分の身を守ることに通じている。

2025 年 5/18 日 12:15 ~ 13:45

ワークピア横浜 3F いちよう
横浜市中区山下町24-1

視聴無料・お申込方法
ハイブリッド開催(会場+Zoom): F記より1つを選んでお申込ください。

Zoomでのお申込

裏面の FAX用紙

主催・お問い合わせ: 公益社団法人日本女医会
〒150-0002 渋谷区千駄ヶ谷1-3-19 ロフレール千駄ヶ谷202
電話: 03-6447-0820 / FAX: 03-6447-0821 / office@jmwa.or.jp



① Zoom 用 QR コード



② 対面用申込み QR コード

公益社団法人日本女医会
(((理事会議事録)))
2024 年度第 5 回理事会議事録

1. 日時・場所

1. 日時 2024 年 11 月 16 日(土)
午後 3 時 30 分～午後 5 時 30 分
2. 場所 ZOOM によるオンライン会議
3. 出欠席者
1)出席者
理事 前田佳子 藤谷宏子
青木正美 青山さつき
大橋俊子 織田洋子
木村友美 新谷朋子
樋渡奈奈子 宮坂晴子
望月善子(16:30 頃退席)
監事 芳川た江子 犬飼ひろ美
2)欠席者
磯貝晶子、牛山元美

2. 継続審議事項

1. 第 70 回定時総会について (継続)
前田会長より以下の説明が行われた。
・エクスカッション:今回はコンパクトな開催とし、一日で終了する事を目指すため、開催は見送ることとなった。
・支部本部連絡会:前夜に完全オンラインで開催予定。
・総会会場:横浜の医師会館にて 2025 年 5 月 18 日(日)10:00 開始。その後、公開講演会を行い、遅めのランチで懇親会を予定。近くて簡便に移動可能な会場を検討中。16:00 までには終了する予定。
・公開講演会:講師はジャーナリストの鎌田慧氏に決定。『冤罪と死刑、～人質司法の現状～』について講演していた。
2. 2025 年度「日本女性医師デー」について (継続)
前田会長より、来年 4 月 6 日(日)主婦会館プラザエフで、13:30～16:00 に開催を予定し、講師は岡山大学泌尿器科の小林知子先生と、藤田医科大学ばんだね病院脳神経外科の加藤庸子先生から内諾をいただいている旨の説明があった。また、今後の女性医師デーの活動として、萩野吟子と吉岡彌生を紙幣の顔にする展望が語られた。
3. 国際女医会参加費補助額について (承認)
藤谷副会長より、航空料金を調査した結果、移動に一日を要し、金額も前回のフィリピンを考慮すると 30 万円とする旨の

説明がなされ、承認された。

4. 支部からのシール発行依頼について (承認)
藤谷副会長より請負金額の検討経過、および結果の金額が報告され承認された。

3. 審議事項

1. 国際女医会年会費について (承認)
前田会長より今年の年会費に関する説明があり承認された。
2. 2025 年度 事業計画案及び予算案について (承認)
藤谷副会長より説明があり、2025 年度の事業計画案及び予算案が承認された。
2025 年度の収支予算案に関しては、国際女医会の渡航先がエジプトであるため予算を引き上げたこと、女性医師デーの運営費を計上している点、そしてブロック懇談会の交通費を渉外費として計上している点について補足説明がなされた。
3. 2025 年度ブロック懇談会について (継続)
宮坂理事より今後予定を立ててゆく旨の説明があった。前田会長からは岡山で検討する旨の発言があった。
4. 会計報告 (承認)
青山理事より説明があり、2024 年 9 月、及び 10 月の会計報告が承認された。
5. 役員等 旅費規定と追加改定 (承認)
藤谷副会長より説明があり、国内の旅費と宿泊費についての改定内容が説明され承認された。
6. ロゴマーク入ピンバッジの発注について (継続)
藤谷副会長より会員に送付するピンバッジの在庫が少なくなったことが報告された。
再制作に関しては 2 つのデザインから希望が採択されたが、同数の支持を得た為、欠席の理事の意向も反映できるよう、日を改めて再度採決を行うことが決定された。
7. 2024 年度第 4 回(9 月)理事会議事録承認 (承認)
新谷理事より説明があり、2024 年度第 4 回理事会議事録が承認された。
8. 事務の寸志について (承認)
パートタイム勤務の事務員 1 名に 5 万円の冬季寸志を払うことが承認された。
4. 報告事項
1. 各部、NC 報告
1)庶務部報告
・宮坂理事より、①次回理事会の日程確認が行われた。理事会を 1 月 19 日(日)11:00～13:00 で実施。その後、新年会と新旧理事の歓迎迎会を兼ね

た食事を 13:30～16:00 で予定。
場所は未定だが、前回と同じ所を検討中との説明がなされた。

②新入会員と会員動静についての報告があった。

2)広報部報告

- ・木村理事より、会誌 253 号について編集内容や日程の説明がなされた。また、藍綬褒章を含め、受賞された会員が 3 名いることが紹介され、掲載予定の説明があった。
- ・前田会長から、会誌の広告や HP パナー広告を獲得するため、積極的な声かけを求められた。加えて、藤谷副会長から、広告依頼の手続きが迅速に進むよう、会誌一部と趣意書をセットにし、2～3部を全理事に送付することが提案された。
- ・新谷理事から、北海道では対面ではなくメールでデータの送付を行っている状況の説明があり、理事への送付形態も印鑑省略のデータ形式を加えるよう提案された。

印鑑が必要な段階に進んだ場合は、紙での対応が必要になること、また会報誌は PDF で添付とする事が確認、補足された。

3)学術部報告

望月理事より、現在の各賞の応募状況に関する報告が行われ、応募状況がゼロである旨が伝えられた。また、周囲への募集促進を呼びかけられた。

4)IT 部報告

青木副会長より、来年度の総会時、前夜に予定されている支部本部連絡会議がオンライン開催となることを歓迎する旨の発言があった。また、今年度の長寿社会福祉委員会講演会の収録に関して、講師の体調を考慮し急遽実施された経緯と、これまでの様式とは異なる収録方法が採用された点について詳細な報告がなされた。

5)ナショナルコーディネータ報告

前田会長より、来年の国際女医会会議の開催日(2025 年 10 月 13 日(祝・月)～15 日(水))が連絡された。祝日と重なる為、積極的な出席を呼びかけられた。会議はエジプトのカイロで開催され、今回のテーマは「One Humanity: Health solutions through our partnerships」。現在、HP 上で演題募集が始まっており、詳細は追って連絡する旨の説明があった。

2. 各委員会報告

1)ダイバーシティ推進委員会

木村理事よりキャリアシンポジウムの収録が 10 月 31 日に終了し、その内容が

紹介された。今回は Peatix を利用しているため、類似テーマが薦めとして自動的に届くシステムから、申込増が期待される一方、口コミは有効である為、宣伝の協力依頼がなされた。

2) 長寿社会福祉事業委員会

青木副会長より収録の詳細が報告された。渾身の作品となっており、多くの人へ視聴を呼びかけられた。

3) 女性の健康支援事業委員会

樋渡理事より、筑波大学の高橋晶先生を講師に迎え「震災時の心のケア」というタイトルの講演が予定されている旨の説明があった。受付は事前に質問も受け付ける形で Peatix で行い、収録は2月にリハーサルと本収録を実施予定。公開は女性の健康週間に合わせ3月1日～8日を予定している旨の説明があった。

4) 小児救急・子育て支援委員会

藤谷副会長より、次回の HP 掲載として耳鼻科の記事を新谷理事が執筆する予定である旨の説明がなされた。

5) HP 製作委員会

前田会長より、前回の理事会以降に掲載された内容が報告された。

3. 対外的団体活動

1) 国際婦人年連絡会

前田会長より、10月16日に常任委員会が開催され、次回は11月20日に開催予定である旨の報告がなされた。また、現在、行っている主な活動として、来年11月16日に開催予定の「2025 日本女性大会」の準備についても報告があった。場所は四谷の主婦会館で基調講演は、元内閣府男女共同参画室長武川恵子氏でほぼ内定。パネルディスカッションは未定だが、杉並区長の岸本聡子氏、法政大学前総長の田中優子氏、もう一人は弁護士か若手アクティビストの方に依頼する方向で調整中との報告がなされた。また、国際婦人年連絡会創立 50 周年とも重なる為、「北京プラス 30」と併せ実施予定である事も補足された。

2) 国連 NGO 国内女性委員会

前田会長より、次回は11月17日夜に開催予定である為、その内容については次の理事会で報告する予定との説明がなされた。

以上

公益社団法人日本女医会 (((理事会議事録))) 2024 年度第 6 回理事会議事録

1. 日時・場所

1. 日時 2025 年 1 月 19 日(日)
午前 11 時 00 分～午後 1 時 00 分
2. 場所 外苑前 Esta E- 会議室
3. 出欠席者
1) 出席者
理事 前田佳子 藤谷宏子
青木正美 青山さつき
磯貝晶子 牛山元美
大橋俊子 織田洋子
木村友美 新谷朋子
樋渡奈奈子 宮坂晴子
望月善子
監事 芳川た江子 犬飼ひろ美

2. 継続審議事項

1. 第 70 回定時総会について (継続)

① タイムテーブル案及びスケジュール案

総会の開始時間について、前田会長より当日飛行機を利用するような遠方から参加される方を考慮すると、開始時刻を 10:30 にしてはどうか、との提案があった。これにより以下の時間でスケジュールを決定した。

- ・総会 10:30～12:00
- ・講演会 12:15～13:45
- ・懇親会 14:00～16:30(受付 14:00、開始 14:30 など時間の調整は可能)

② 総会・講演会会場＝ワークピア横浜に変更

横浜では総会開催日がトライアスロンの世界大会と重なっているため会場が変更された。宮坂理事より総会と講演会会場の「ワークピア横浜」、総会の会費(3,000 円/1 人)、懇親会の会費(22,000 円/1 人)の説明が行われ承認された。

また、案内状に関しては以下が承認された。

- ・申込書の締切日は、総会 4 週間前の 4 月 18 日(金)とする。

締め切り後に問い合わせがあれば事務局で個別に対応する。

- ・委任状：ハガキに目隠しを使用しない内容にする為、極力個人情報が入らないよう、住所を削除し名前の記載に留めることとする。また名前も自署なら印鑑が不要。これまでの官製ハガキに印刷から「料金受取人払」へ変更する。

③ 5/17(土)支部・本部連絡会 夜オンラ

イン開催について

前田会長より開催日時の設定について、前日夜の開催にすると、前日夜から移動をする会員にとっては時間が重なってしまうのではないかと、との懸念が述べられた。

青木会長からは、支部本部連絡会こそ、各支部の話をよく聞ける機会でありそれが会の趣旨である。Zoom 開催が最適で皆さんが落ち着いて PC に向かえる時間が好ましい旨の発言があった。また、望月理事より、総会と時間を切り離して検討できるのであれば、学会に重ならない日程を、前田会長からは関西地方での夜の診療時間を考慮して検討してはどうか、などの意見が述べられた。これらの経緯から、日程が諮られ 5 月 13 日(火)20 時からの開催が決定した。

2. 2025 年度「日本女性医師デー」について (承認)

前田会長より、今回は会員の先生にお話をしていただきたいという趣旨から、小林先生と加藤先生に講師を依頼し、若手と先輩という立場から一つのテーマについて講演していただくとの説明があった。第 2 部の懇談会に関しては、飲料などの持ち込みがきかないため、会場に依頼する。また 1 月号の会誌にチラシを同封し宣伝することが説明された。

3. 2025 年度ブロック懇談会について (継続)

前田会長より、岡山に打診したところ、今年は受けられない事情があり来年開催の検討を依頼した。今年に関しては青森で再度検討をしたい旨の説明があった。前回の総会出席者の名簿を確認し、四国や年頭所感で寄稿して下さった支部も検討してみたいとの考えも述べられた。

4. ロゴマーク入ピンバッジの配布・販売について (承認)

藤谷副会長よりピンバッジ 2 種類が納品された旨の報告と、販売価格(2 個セットで 1000 円、1 個 700 円)についての説明があった。

3. 審議事項

1. 2025 年度理事会開催日日程について (承認)

藤谷副会長より日程が示され、承認された。

2. 「ウィメンズマーチ東京 2025」開催賛同団体の件 (承認)

前田会長より、2023 年より賛同団体として登録しているが、今年は賛同金として 3,000 円の依頼が来ており、協力したい旨

の説明がなされ、承認された。3月8日(土)に開催されるマーチとアフターパーティへの参加も求められた。

3. 各賞について (継続)

- ・望月理事より 2024 年度の各賞の応募状況について報告がなされた。また、学術助成の応募時に、応募規定に関する事務局への問合せ事項が紹介された。さらに応募要項の更新方法について、要項に追記するか、または Q & A にするかを検討し、次回の応募に間に合うように整備した内容を審議したい旨の説明がなされた。
- ・前田会長より、2025-2026 年度外部委員の選考について以下の説明があった。現在の外部委員2名は、以前女子医大で教鞭を振られていた溝口昌子先生の夫で血液内科の溝口秀昭先生と、元泌尿器科の教授の中澤速和先生で、会長の縁で長年委託されている。任期が長くなってきたため、再任をお願いするか、来年度委員を変更するかを検討する必要がある。新たな委員を推薦する形で決定していきたい。新しい方を推薦する場合は秋までに決定できるよう理事に協力を求められた。(補記: 2023 年度より外部選考員規定が設定され任期が2年になった。次は 2025 年秋までに外部選考員を決定する)

4. 2024 年 11 月・12 月会計報告承認、2025 年度の予算承認 (承認)

- ・織田理事より説明があり、2024 年 11 月、及び 12 月の会計報告が承認された。
- ・藤谷副会長より 2025 年度の予算について説明があり承認された。
- ・経費削減案について、紙の会報誌を止め、メールに URL をつける方法が理想的であるとする意見が前田会長から出された。メールアドレス取得が困難な状況が話し合われた。(詳細は備忘録として別紙に残します)
- ・役員慶弔費について

藤谷副会長より役員慶弔費の対象範囲について説明がなされた。慶弔費は2年に1回、年度初回の理事会にて5千円集めていたが、今後は総会時の徴収を依頼された。

5. 2024 年度第 5 回 (11 月) 理事会議事録承認 (承認)

新谷理事より説明があり、2024 年度第5回理事会議事録が承認された。

4. 報告事項

1. 各部、NC 報告

1) 庶務部報告

宮坂理事より新入会員と会員動静についての報告があった。

2) 広報部報告

- ・木村理事より、253 号の反省から、執筆担当の理事の先生には校了日を事前にお知らせするとの説明があった。

【次回の「北から南から」に関して】

- ・青森に依頼を検討中である旨が報告された。また、支部の担当理事という役割があることを考慮し、この機会に原稿依頼の役割を果たしていただくのはどうかとの意見が述べられた。
- ・前田会長より、「北から南から」に関し、石川県の先生に震災を経験された事から執筆をお願いしてはどうかとの提案があった。支部長に限らず、支部の中で被災現場の状況に通じた人に依頼できればより好ましいのではないかと、との意見も加えられた。
- ・「阪神淡路大震災から 30 年」にフォーカスしてはどうか、との意見が他の理事より提案された。藤谷副会長の実経験より、当時アレルギーミルクが入手できなかった実情が共有された。是非その時の経験を、とのことで次回の「北から南から」の寄稿に決定した。

3) IT 部報告

磯貝理事より総会時の配信について、支部・本部連絡会は女医会の Zoom ID でホストを実施する。総会と講演会はウェビナーで配信する予定で、今年度と同様の形式となる旨の説明があった。

4) ナショナルコーディネータ報告

前田会長より会議が行われていない為、新しい報告事項が無い旨が述べられた。

2. 各委員会報告

1) ダイバーシティ推進委員会

木村理事より、キャリアシンポジウムの 11 月の配信が好評だった旨が報告された。現在アーカイブ配信が継続中であること、アンケート結果の紹介、そして今後も事務局の負担軽減が図れる Peatix での継続予定である旨が説明された。

2) 長寿社会福祉事業委員会

牛山理事より、今回講師の体調が悪く、タイミングを見計らった収録であった状況が説明された。さまざまな層の方々に視聴され、大きな反響を得ていることも報告された。

3) 女性の健康支援事業委員会

樋渡理事より、講演会のリハーサルと、本収録日時の予定が説明された。また、予定しているアンケートの内容が紹介された。

4) 小児救急・子育て支援委員会

藤谷副会長より、新谷先生から「5 歳児健診」について、と日本小児科医

会で制作した子育て支援動画をホームページに掲載した旨の報告があった。今回は「睡眠と異物」について新谷先生から記事を提供していただく予定であることと、ワクチンの情報を掲載予定である旨の報告がなされた。

5) HP 製作委員会

前田会長より、前回の理事会以降に掲載されたホームページの内容が報告された。

3. 対外的団体活動

前田会長より以下が報告された。

1) 国際婦人年連絡会

11 月 20 日と 12 月 18 日に常任委員会を開催。これまでの間に出した要望書は 2025 年度予算編成において、全ての子ども達に行き届いた教育の保証を求める要望書、核兵器廃絶への取り組みの強化を求める要望書を提出。他セミナーの報告がなされた。この先の予定として 2/1 能登地震・豪雨“三重被災”の深刻さとピース・ウインズジャパンの活動、2/8 青木美希さんの「地震大国日本でなぜ原発を止められないのか」が紹介された。次回は 1 月 22 日に常任委員会開催予定。

2) 国連 NGO 国内女性委員会

11 月 17 日にオンラインの委員会を開催。今年の 3 月に開催される「国連女性の地位委員会(CSW)69」は国連 NGO が中心となり現地開催予定。場所は国連の中で、3 月 13 日夜 11 時(日本時間)ハイブリットでの開催を予定している。

3) 災害復興まちづくり支援機構

日本女医会は賛助会員として団体加盟している。11 月 26 日に総会があり、青木副会長と参加。災害復興まちづくりは阪神淡路大震災をきっかけに作られた。災害時の専門家集団に医療系からは女医会が初めて加盟している等、詳細が青木副会長から紹介された。

以上



軽井沢セミナー中止のお知らせ

2025 年度の軽井沢セミナーは、10 月 12 日～14 日にエジプト・カイロで開催される国際女医会会議と日程が近いため、開催を見送ることといたしました。ぜひこの機会にカイロでの国際会議へのご参加をご検討いただければ幸いです。

軽井沢セミナー同好会 会長 小関温子

ハラスメント対策ポスター



大阪府女医会では、令和 5 年度の活動として、女性だけの医療現場におけるハラスメントのアンケート調査を行いました。その結果、医療現場におけるモンスターバイシエン
トハラスメントへの対策を求める声が多数あり、患者啓発
ポスターを 2 パターン作成しました。ご勤務のクリニック
等で、ご活用いただきましたら幸いです。



左の QR コードまたは下記 URL よりダウンロ
ードください。

https://osaka-joikai.com/img/A4_harassment.pdf#zoom=100

会員動静

(2024 年 11 月 17 日～2025 年 3 月 31 日現在・敬称略)

	氏 名	支部	卒年
入会	中道 蘭	新宿	平成 26
	高城利江	宮城	平成 6
	石北綾子	福岡	平成 20
	樋口陽子	埼玉	平成 20
	尾谷真弓	兵庫	平成 23
退会	13 名		
物故	足立茂代子	練馬	昭和 15
	神野クララ	埼玉	昭和 33

[訂正とお詫び]

253 号 20 ページに掲載の会員動静のなかで、木島麻衣先生の卒年が昭和 55 年とありましたが、正しくは平成 17 年です。訂正してお詫びいたします。(広報部)

寄附者一覧

(2024 年 12 月 20 日～2025 年 3 月末現在)(敬称略)

以下のとおりお知らせいたします。

ご協力ありがとうございました。

中 央 青木正美 神奈川 前田佳子
都下東 瀬下由美子 大 阪 谷野桂子
岩 手 山口淑子 練 馬 角田由美子

編集 後記

40 年ぶりに武者小路実篤の『真理先生』を手
に取った。
弟子「人を殺すことはどんな時でもよくないの
ですか」

真理先生「あなたが殺されていい時があります
か。あなたが殺されていい条件があれば、それを聞かして下さ
い。あなたがどんな時でも殺されるのがいやなら、少なくとも
あなたは人殺しをしてはいけません」
「その通りです、真理先生！暗殺を恐れて影武者を立てている
戦争指導者に言ってやってください！」つい独り言が出た。

ホモ・サピエンスは 6 万年前にアフリカを出て世界各地に散
らばったが、分子生物学の研究結果から、世界中すべての現
生人類が 99.9% 同じゲノムを有していることがわかってい
る。人種、生き立ちが違って、いやだと感じることはほぼ同じ
はず。みんなが少しずつ譲歩して世界が平和になることを祈り
ます。

(広報部 木村友美)



日本女医会誌

復刊第 254 号 2025 年 5 月 1 日発行

編集人 木村友美

発行人 前田佳子

制作 あづま堂印刷

発行所 公益社団法人日本女医会

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-3-19

ロワレル千駄ヶ谷 202

TEL 03-6447-0820 FAX 03-6447-0821

<http://www.jmwa.or.jp>

e-mail : office@jmwa.or.jp

